

鈴木克彦博士ご退職記念号
刊行に寄せて

神戸生まれで阪神間育ちの鈴木克彦先生は、神戸大学経済学研究科博士課程に在学中（1968年3月同課程修了）の1967年に、関西学院大学経済学部助手に就任されました。そして、1970年専任講師、1975年助教授、1981年教授、1988年大学院経済学研究科博士課程前期課程指導教授、1991年博士課程後期課程指導教授にご就任になりました。その間、大学学生部副部長、学部教務主任、大学院教務学生委員などを担当されました。そして、39年間本学勤務の後、2006年3月に退職され、名誉教授になられました。

鈴木先生は、関西学院大学において、教育と研究に傑出した貢献をされました。鈴木ゼミから多くの優秀なゼミ生が輩出したことは有名です。研究室の扉には鈴木ゼミのトレードマークが貼られ、そのデザインの真ん中に鈴木克彦の「克」の字が大きく書かれていました。「克」は「努力して困難な状態を乗り越える」ことを意味しています。まさにその克にふさわしく、鈴木ゼミはディベートの強いゼミとして学内外で有名でした。学外では京都大・慶応大・一橋大・神戸大の各ゼミと対抗ゼミ討論会を開き、日ごろの努力の成果を発揮していました。そのことを物語るエピソードとして、私はかつて『経済セミナー』（日本評論社）の中で、京都大学経済学部のゼミ紹介があったときに、鈴木ゼミとディベートするために研究に励んでいるという記事を発見したことがあります。

鈴木先生の専門分野は、国際貿易や直接投資の原因・効果・政策を理論的に分析することであり、先生は、理論の枠組みを伝統的な国際経済学のモデルである二国、二財、二生産要素モデルから三国、三財、三生産要素モデルへと拡張し、国際経済の重要な問題を解明されてきました。そして、多くの水準の高い論文を生み出されました。先生は、朝早くから一日中、研究室で研究に励まれていました。私は、長年、先生の隣の研究室にいましたので、よく知っております。ロチェスター大学大学院で1974年2月にM.A.を、1981年5月にPh.Dをそれぞれ取得されております。先生はロチェスターで勉強されていたときが人生の中で一番素晴らしい経験であっ

たと 2006 年 1 月 13 日に行われた最終講義で話されています。

先生は、国内の学会誌や学術専門誌のレフェリーだけでなく、海外の学術誌のレフェリーもされました。また、日本経済学会理事も勤められ、国内の学会や国際カンファレンスでの報告はもちろん、数多く、座長や討論者の役をされています。また関学経済学部はフランスのリール第 1 大学と 10 年以上の学術交流を重ねていますが、リールにおいて開かれた 1994 年関学・リール大学国際シンポジウムや 2000 年日仏シンポジウムではセッション座長を勤められたり、講演もされました。そして 2005 年 3 月に大阪と関学で開かれた日欧経済シンポジウム開催のために尽力されました。

このたび鈴木先生のご退職に際し、先生の永年の研究・教育への多大なるご貢献に経済学部としての謝意を表すために、この記念号を発行することになりました。この趣旨にご賛同いただき、原稿をお寄せいただいた学内外の研究者の皆さんに、厚く御礼申し上げます。とくにこの記念号は、多くの学外の先生方に原稿をお寄せいただいているのが特徴となっています。また、編集にあられた『経済学論究』編集委員会のみなさんおよび宇多田経済学部事務長に感謝いたします。

鈴木先生の今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。

2007 年 2 月 28 日

関西学院大学経済学部長

根 岸 紳